

令和7年度第1回いわき市医療センター病院経営評価委員会議事録

- 日 時 令和7年8月19日(火) 午後6時30分～午後8時20分
- 場 所 いわき市医療センター 1階 きょうりつ講堂
- 出席者
 - 1 委員(出席:9名)
赤津 雅美、飯塚 修一、片寄 睦美、加藤 尚子、齊藤 道也、坂元 和子、
新家 利一、高萩 周作、原口 英明
※五十音順・敬称略
 - 2 事務局
新谷病院事業管理者
杉院長
関根副院長兼看護部長
緒方事務局長
吉津次長
 - ・経営企画課
鈴木課長、佐藤統括主幹兼課長補佐、
横山課長補佐兼企画広報係長、西山主査、久野主事
 - ・総務課
鈴木課長
 - ・医事課
根本課長、猪狩主幹兼課長補佐
 - ・施設管理課
大須賀課長
 - ・情報システム管理室
藤本室長
- 配布資料
 - ・(資料1) 令和6年度第2回いわき市医療センター病院経営評価委員会 議事録
 - ・(資料2) 令和6年度の取組状況(決算等)について
 - ・(資料3) 「いわき市病院事業中期経営計画(2024～2027)」評価報告書(令和6年度分)
 - ・(資料4) 2040年に向けた病床機能の方向性について

1 開会

2 報告

事務局から、資料1「令和6年度第2回いわき市医療センター病院経営評価委員会 議事録」に基づき、報告した。

3 議事

(1) 協議事項

「いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）」評価報告書（令和6年度分）について

事務局から、資料2「令和6年度の取組状況（決算等）について」及び資料3「『いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）』評価報告書（令和6年度分）（案）」に基づき、説明した。

[委員からの質疑・意見等]

【評価報告書 令和6年度収支見通しと決算額の比較について】

⇒医業収益は過去最高を確保した一方で、給与改定による給与費増や材料費高騰等で費用が大幅に膨らみ、増収にもかかわらず約4.6億円の赤字となったことや、以下の質疑内容なども踏まえ、総合評価を「B」とした。

(委員)

県人事委員会勧告等に伴う給与費の増加について、資料では前年比11.1億円増とされているが、これは単に給与水準が上がった結果なのか、人員増も含まれるのか。

また、国の診療報酬改定での手当では十分ではないように見えるが、今後の見通しについても伺う。

加えて、こうした給与費増が続けば民間病院との賃金格差が拡大し、民間病院のスタッフ確保が今以上に困難になるとの懸念もある。

(事務局)

給与費において、県人事委員会勧告に伴う増額分は約5億円である。

一方、国の診療報酬改定で新設されたベースアップ評価料は当センターでは約1.1億円にとどまり、差額は当センター自身で負担せざるを得ない実情である。

令和7年度も同様の給与費増が見込まれるため、収益の一層の確保など自助努力を進める必要があると考えている。

【評価報告書 基本方針Iについて】

⇒手術件数や外来化学療法件数等は目標を上回り、高度医療（ダビンチの施設基準取得等）や地域連携（紹介・逆紹介、訪問活動）でも成果が見られることや、以下の質疑内容なども踏まえ、総合評価を「A」とした。

(委員)

ヒヤリハットレポートは、抜け目なく提出できている点は評価するが、同じようなミスが繰り返されているということではないか。

また、医療事故調査制度を利用して作成した報告書の件数についても伺う。

(事務局)

当センターのヒヤリハットレポートの内訳はレベル0～1の患者に害が及ばない、あるいは未然に防げた事例が大半である。ヒヤリハットは「簡単なことだが、よく間違ってしまう事例」を積極的に提出することとしており、件数自体は必ずしも悪を示すものではなく、むしろ増やしたいと考えている。

医療事故調査制度を活用した報告は、令和6年度は該当事案がなく、直近3ヶ年を振り返っても該当事案はない。

(委員)

救急車搬送受入件数について、インターネット上の人口10万人当たり搬送件数のランキングで、福島県内で当センターが上位にあるとの情報もあったが、目標4,300件はどのような経緯で設定したのか。

令和6年度は目標値を下回り自己評価がBとなっているものの、救急車受入件数は周辺医療機関の体制なども影響してくると思うが、来年度以降の目標値見直しの可能性について伺う。

(事務局)

目標値は、新規入院患者数の見込みから救急搬送件数の割合を試算して設定したものである。令和7年度から、医療圏全体で休日・夜間の輪番体制が変更したことも踏まえ、来年度以降の目標値は、下方修正する予定である。

【評価報告書 基本方針Ⅱについて】

⇒常勤医師が不在だった3診療科に常勤医師を招聘したほか、研修医は6年連続フルマッチを達成するなど採用面で成果が見られる。給与費が経営を圧迫している現状を踏まえると、人員配置の適正化は検討すべき課題であるものの、以下の質疑内容なども踏まえ、総合評価を「A」とした。

(委員)

休床が発生するなど人員不足が想定されるが、昨年度と比べて看護師の充足率は改善したのか。また、タスクシフトの現状について説明を求める。

(事務局)

看護師は令和7年4月時点で、ほぼ充足していると認識している。タスクシフトについて、看護部では、臨床検査部門へ移管可能な業務の洗い出しを行っており、協議が整ったものから順次取組みを進めるとしている。また、タスクシフト先における人員体制の整備も進めている。

(委員)

職員の充足率も一つの指標であるが、そもそも定数が本当に適切な人数かは疑問である。当センターは医療圏唯一の自治体病院で、不採算部門の医療も提供している重要な病院であり、持続可能な経営をしていかなければならない中で、他病院では人員を抑えることで黒字化している事例があるが、現在の職員の定数が本当に適切であるかどうか、抜本的な見直しを行う考えはあるか。

(事務局)

現状の経営状況に鑑みて、最小限の人的リソースで最大の利益を出すことが経営上のテーマになる。当センターでは、定年延長や会計年度任用職員に係る制度変化もあることから、人的リソースの再配分を進める必要があると考えており、それらを踏まえて、毎年の採用計画を作成していく考えである。

【評価報告書 基本方針Ⅲについて】

⇒福島県からの第一種協定指定医療機関への指定、感染制御チームの地域支援、院内の感染管理室における専従看護師の周知活動等が機能しており、危機管理体制が整備されているほか、以下の意見なども踏まえ、総合評価を「A」とした。

(委員)

コロナ対応を通じて、新興感染症等に対しては、地域で一致団結して乗り越えていくといった組織風土が根付いたのではと感じている。有事の際の備蓄等も適切に行われており、全ての指標で自己評価がAである点は納得できる。

【評価報告書 基本方針Ⅳについて】

⇒DPC 収益や医業収益は計画を上回り過去最高を記録したものの、給与費・材料費等の大幅増で費用が膨張し、医業収支比率が100%を下回り5年ぶりの赤字となったことや、以下の質疑内容なども踏まえ、総合評価を「B」とした。

(委員)

薬価改定の影響で逆ザヤとなる薬剤が増えていると伺ったが、逆ザヤ品はどの程度あるのか。

(事務局)

薬価と納入価の単純な比較では、令和6年度は80品目程度が逆ザヤであったが、令和7年4月の薬価改定を受け、100品目を超える薬品が逆ザヤとなった。この状況を受け、一部の薬品については、メーカー変更などを行い、差益を確保するよう対策した。

(委員)

今後病床利用率を上げていくということが示されたが、具体的な方策について伺う。

(事務局)

短期入院の受入体制づくりを進めるとともに、服薬指導や栄養指導といった退院時支援の充実を図るなど複合的に取組みを行っていきたい。

【評価報告書 基本方針Ⅴについて】

⇒経営形態についての調査研究を継続的に行っていることや、以下の質疑応答なども踏まえ、総合評価を「A」とした。

(委員)

周辺病院の建て替えなどが予定されている中で、人材不足などの懸念がある。人的資源や医療資源を有効活用する観点から、市内他病院との連携強化や共同運営の可能性について、どのように考えているか。

(事務局)

経営形態については、現時点では地方公営企業法の全部適用を維持する方針である。そのうえで、地域医療連携推進法人など、競争ではなく協同を意識した連携強化の方法について現在模索中である。

また、周辺病院の建て替え等により医療資源の再配分として派遣医師が引き上げられるなど、当センターも懸念するところであるため、関係者に対する働きかけを積極的に行っていく。

(2) 協議事項

「今後の病床機能の方向性」について

事務局から、資料4「2040年に向けた病床機能の方向性について」に基づき、説明した。

[委員からの質疑・意見等]

(委員)

今後の医療需要について、増加すると考えられるのは、在宅医療や認知症の分野だと思うが、当センターでもこれらの医療も提供する考えがあるのか。

(事務局)

現状で、すぐに体制整備できる状況にはないが、今後の病床機能を考えていく上では、そうした分野までキャパシティを広げることも検討の遡上に載せる必要があると考えている。

(委員長)

今後の病床機能については、新しい地域医療構想の枠組みで、在宅医療や高齢者救急の分担をどのように進めるかが重要となる。前回の当委員会でも意見があった、かかりつけ医機能も含めて、当センターとしての方向性を多面的に検討し、医療圏全体の課題解決と当センターの病院経営改善につながることを期待している。

4 その他

事務局から、次回の委員会の協議予定内容及び開催予定時期について、報告した。

5 閉会